



## 関節リウマチの治療と市立病院の取り組み

草加市立病院  
膠原病内科医長 金子佳代子

### 関節リウマチは難病から治療できる疾患へ

関節リウマチは、全身の関節に炎症による痛みと腫れを来とし、進行すると関節の変形や脱臼などの関節破壊に至る疾患です。日本人における有病率は約0.5%とされ、30～50歳の女性に多いと言われている病気ですが、60歳を過ぎての発症や、男性患者も珍しくありません。

関節リウマチの治療の歴史はま

だしく、これまでは鎮痛薬やステロイド剤を用いた関節の痛みをとる治療しか行われてきませんでした。しかし、最近になってリウマチの炎症の原因物質を押さえ込む生物学的製剤が使用されるようになりまし。これらの薬剤は、関節破壊の抑制に非常に高い有効性を示しています。

関節リウマチは、ここ20年の間に多くの患者さんを苦しめる難病から、治療できる、病気へと変貌を遂げたのです。

### 専門医による診断と早期からの治療が有効

新しい治療薬の登場にもかかわらず、残念ながら治療前に進行した関節変形を元に戻すことはできません。関節リウマチの関節破壊は、発症2年以内の早期に起こることが知られているため、これを防ぐには早期治療が大切です。

関節リウマチの発症を疑うような兆候（関節の痛みや腫れ、朝の手のこわばり）が見られたら、できるだけ早期に専門の医療機関を受診されるようお勧めします。

### 埼玉県内では数少ない専門医療機関として

市立病院膠原病内科では、昨年

4月に常勤医が2人赴任し、外来診療をそれまでの週3日から4日に増設、加えて入院診療を開始しました。昨年度は年間80人程度の関節リウマチや膠原病の入院診療を行いました。

県内では膠原病を専門的に受け入れる施設は極めて少ない状況ですが、市立病院は専門医療機関の1つとして、様々な取り組みを行っています。

まず1つ目は、積極的な新規患者さんの受け入れです。現在は月平均6～7人程度の患者さんが紹介来院されています。

2つ目は、草加八潮医師会との連携です。当院を有効に利用していただくためには、診断が確定し、治療内容が決まって症状が安定した患者さんには、可能な限り地域医療機関での療養を行っている。そのため、市立病院膠原病内科では、医師会との協力連携を強めています。

3つ目は、リウマチ・ケアチームの立ち上げとリウマチ教室の開催です。患者さんの長い療養生活をサポートし、ご自身が病気に対する理解を深めていただくため、医師、看護師、薬剤師で構成されるケアチームが関節リウマチの全人的なケアを学ぶとともに、患者さんへの教育活動（リウマチ教室）を行っています。

私たちはこれからも仲間を増やし、より患者さんに寄り添える医療をめざして参りますので、よろしくお願い致します。

こうげんびょう  
**膠原病ってどんな病気？**  
東京医科歯科大学医学部附属病院長  
膠原病・リウマチ内科教授 宮坂 信之

**はじめに**  
膠原病（こうげんびょう）内科とは、膠原病という原因不明の一連の病気の診療を行うところです。ここでは、膠原病とはどんな病気なのでしょうか。

**① 膠原病とは？**  
膠原病とは、ひとことでは「一体の中の血管と結合組織に炎症が起こる」病気の総称です。膠原病の中でもっとも多いのが関節リウマチです。その他に、全身性エリテマトーデス（SLE）、多発性筋炎/皮膚筋炎、血管炎症候群、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群など、多くの病気が含まれています。

通常、肺炎や胃潰瘍に代表されるように一つだけの臓器に病気が起こります。しかし、膠原病ではからだの中のあちこちの臓器に火の手が及びます。しかも、炎症はときには急激に始まりますが、すぐに治まらずにぐずぐずと長引くのが普通です。また、治療をしても、お薬を減らすとまた症状が出現するというように、長い経過を辿ることも少なくありません。膠原病が難病ともいわれるゆえんです。

膠原病とは体内の代表的な結合組織である膠原線維に由来しています。膠原線維はコラーゲン線維とも呼ばれます。1940年代後半にアメリカの病理学者のクレンペラーは、原因不明の病気で亡くなった患者さんの病理標本を顕微鏡で眺めているうちに奇妙な所見に気付きました。これらの組織では、共通して血管や結合組織にうす赤く染まる物質があることを発見した

残念ながら、膠原病の原因は十分にはわかっていません。膠原病の原因に何らかの遺伝的素因と環境要因が関わっていることは確かですが、それ以上詳しいことはわかっていません。女性に多い原因も不明です。したがって、膠原病を予防することはできません。

**② 膠原病の原因は？**  
医学の飛躍的な進歩によって、膠原病の早期診断・早期治療ができるようになってきました。このために、手後れになって治療がうまくいかないということは激減しました。特に関節リウマチでは、早期発見・早期治療によって半数の方が症状のない寛解（かんかい）と呼ばれる状態になります。

**③ 膠原病で大切なことは早期発見・早期治療**  
膠原病は慢性に経過する病気です。この病気とけんかをしていても病気はよくなりません。むしろ、病気が仲良くしつつ、病気を怒らせないように工夫することも大切です。

**④ 膠原病の治療**  
膠原病の本体は炎症であり、その原因に免疫異常が関係していることから、治療には副腎皮質（ふくじんひしつ）ホルモン（ステロイド）がよく用いられます。ステロイドはよく効く薬ですが、その反面、特有の副作用も持っています。このため、膠原病の診療は専門医が行わなくてはなりません。このほか、免疫抑制薬、生物学的製剤

などの処方にも、専門的な知識を有する専門医が必要です。患者さんの自己判断は危険です。

**⑤ もっと知りたい人は？**  
膠原病についてもっと知りたい方は、インターネット上で私たちの診療科のホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/grad/rheu/rheu.htm>）や難病情報センターのホームページ（<http://www.nanbyou.or.jp>）を参照してください。

膠原病をもっと知りたい人は

東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科

難病情報センター で 検索

**おわりに**  
膠原病は慢性に経過する病気です。この病気とけんかをしていても病気はよくなりません。むしろ、病気が仲良くしつつ、病気を怒らせないように工夫することも大切です。

専門医と患者さん及びそれを取り巻くご家族や友人とがスクラムを組み、病気と正面から向き合えば、膠原病は難病ではなくなるはずはです。